

移植後の肺障害について

移植後の肺障害は移植後半年から2年目までに起きやすいとされています。呼吸障害によって生活に支障をきたす場合や、悪化すると命にかかわることもあるので注意が必要です。

● 閉塞性細気管支炎（Bronchiolitis Obliterans, BO）

慢性GVHDによる肺障害で、細い気管（細気管支）が炎症を起こします。

初期はほとんど症状がありません。

重症になると息切れを起こし、悪化すると在宅酸素療法が必要になる場合があります。早期発見・早期治療には、定期的な呼吸機能検査が大切です。

（移植後1年目は3か月ごと、2年目以降は1年ごと。

慢性GVHDがある場合には症状がなくても3か月に1回程度）

治療はステロイド・免疫抑制剤とともに、マクロライド系抗生剤・ロイコトリエン拮抗薬・吸入薬などを使います。

劇的に効く治療法はなく、根気よく続ける必要があります。



● 間質性肺炎（器質化肺炎）

ガス交換を行うところ（間質）に炎症が起きます。

慢性GVHDと合併したり、感染症がきっかけになることもあります。

咳・息切れ・発熱などの症状が起きやすいです。

治療はステロイドホルモン剤が多く使われます。

感染症がきっかけになっている場合は感染症の治療も大切です。

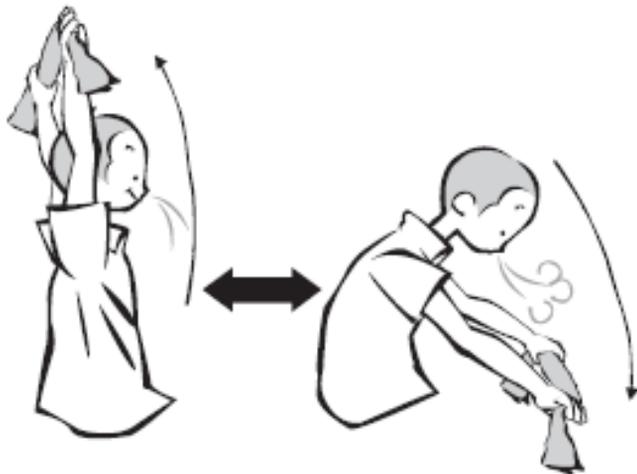
【肺障害への対策】

- タバコは気管と肺の炎症を強く引き起こします。禁煙を守りましょう。
- ご家族や職場などでの受動喫煙も避けるようにしましょう。
- 手洗いやうがいなどの感染予防行動を続けましょう。
- ストレッチ・ウォーキングを継続し、心肺機能を高めましょう。
- 呼吸機能検査を定期的に受けましょう。
- 咳・息苦しさなどがあるときは早めに病院へご連絡ください。

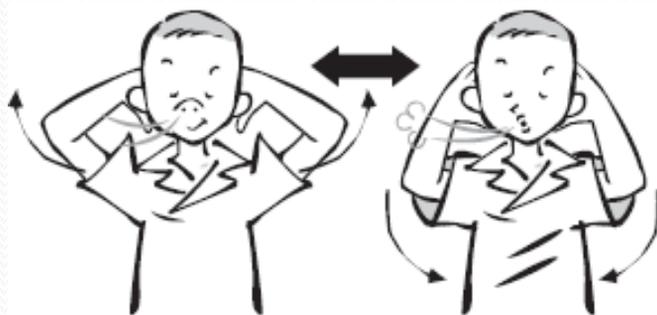


【呼吸体操】

呼吸筋を柔らかくし、胸郭の動く範囲を広げ、呼吸パターンを改善します。



- ① 棒やタオルを両手で持ちます。
- ② 息を吸いながら腕を肩より高く持ち上げます。
- ③ 息をはきながら腕を降ろします。



- ① 頭の後ろで手を組みます。
- ② 息を吸いながら両肘を広げます。
- ③ 息を吐きながら両肘を閉じます。



- ① 息を吸いながら肩を上げます。
- ② 息を吐きながら肩を下ろします。

息を吸うときは鼻から、吐く時は口から行います。
吸う：吐く＝1：2の割合で、ゆっくり行いましょう。

出典：国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科退院パンフレット

ご不明な点はLTFU外来担当者までお尋ねください。

2021年3月4日

